

あいさつ

エコチル調査福島ユニットセンター
センター長 橋本 浩一

～ 3 世代コホート研究へ新たに歩み始めたエコチル調査～

日頃はエコチル調査にご理解、ご協力を賜り有難うございます。

平成 23 年 1 月に開始されましたエコチル調査は 14 年目に入りました。エコチルキッズは小学 4 年生から中学 1 年生となりました。福島ユニットセンター（UC）では出生数の約 93%にあたる 11,914 人が継続参加されています（令和 6 年 3 月現在）。改めまして、参加者、関係者の皆さまのご理解、ご協力に感謝申し上げます。また、令和 5 年度開始早々の 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行し、引き続き必要に応じた感染症対策をしながらではありますが、ほぼ新型コロナウイルス感染症流行前の活動に戻りました。ここに令和 5 年度のエコチル調査福島 UC の活動状況を報告いたします。

“対面とオンラインの良さを生かした活動の幅の広がり”

新型コロナウイルス感染症の流行以来、感染症対策のため様々な活動に制限がありましたが、オンラインの活用により活動の幅が広がりました。主役の子ども達にエコチル調査への関心をさらに持っていただくためのイベントも対面開催を再開し、8 月 21 日にはいわき市の“アクアマリンふくしま”にて「エコチル★ふくしま サマースクール」を開催しました。また、参加者の参加しやすさに配慮し、食育を楽しく学べる企画として、オンラインにて「親子でチャレンジ マイ弁当をつくろう！」を郡山女子大学食物栄養学科の学生さんのご協力のもと開催しました。参加者が作成したお弁当は「マイ弁当フォト」として UC ホームページに掲載しました。さらに、2 月 4 日には三春町のコミュタン福島（福島県環境創造センター交流棟）にて、環境セミナーを「SDGs 研修基礎編」をテーマとして、対面とオンラインのハイブリットにて開催しました。これらの参加型イベントは活動の様子を動画配信し、エコチル調査参加者のみならず一般の方もご覧いただき、エコチル調査への理解、周知にも役立てています。さらに、地域運営協議会も各地域での対面開催を再開し、ハイブリット開催としたことにより会議へも多くの委員の方々にご出席いただきました。

“成果の発信”

調査、研究である本出生コホート調査の目的は、確かなエビデンスを社会に還元することです。全国 10 万組の母子からのビッグデータによりエコチル調査関連の論文が数多く執筆されています。福島 UC では令和 5 年度は学術ワーキンググループのメンバーが 14 通（英文累計 62 通）の英語論文を発表しました。当 UC を含めエコチル調査からの発表論文は当 UC、あるいは環境省のホームページからご覧いただけます。また、エコチル調査の社会への還元も進んでいます。「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023」において当 UC 関係者が執筆した論文が引用されています。特に産婦人科分野ではプレコンセプションケア（Preconception care）の重要性が説かれています。プレコンセプションケアとは将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うことです。エコチル調査からも関連する論文が当 UC から含め多数発表されています。

“外部評価による「A」評価”

エコチル調査は調査の実施に直接参加しない、環境科学、医学等の専門家の中から環境省環境保健部長が委嘱する委員によるエコチル調査企画評価委員会にて、外部評価を毎年受けています。令和5年度の福島ユニットセンターは「A」評価をいただきました。質問票回収率の直近の改善状況、エコチル調査業務全般に関する取組、エコチル調査の成果が評価されました。

“3世代コホート研究への第一歩”

令和5年度からは、令和6年度から始まる40歳を目途とする13歳以降の調査への準備が本格的に開始されました。これまでは保護者のご理解と熱意に支えられてきたエコチル調査ですが、13歳以降の参加継続は児の意思が尊重されることとなり、これまで以上に子どもたちの本調査へのご理解、ご協力が重要となると同時に大きな課題です。

今後、エコチル調査は、成人領域、そして両親・本人・本人の児の3世代コホート研究へ発展していきます。本調査から得られる果実がより大きくなることが期待されます。今後とも、関係者の皆さまの御理解と御協力のもと参加者とともに一步一步あゆみ続けていきたいと存じます。よろしく申し上げます。

令和6年6月